QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001 認証取得



INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

プロジェクト21—構造改革—を進めるにあたって



（財）日本ハンドボール協会専務理事　大西　武三

いよいよ、来年は、北京オリンピックのアジア予選が開催される年である。今年は、是が非でも男女ナショナルチームが予選を突破できるようその環境を整えていくことに協会の総力を結集していきます。ご支援の程よろしくお願いします。

日本ハンドボール協会ではプロジェクト21（Pro.21）—構造改革—と銘打って日本のハンドボールが21世紀に羽ばたくための構造改革を進めているところです。その、目標として

1、2010年にハンドボール人口を日本で3位に

2、オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力

3、日本ハンドボール協会が人、物、金で自立化

を掲げ、このシステムを今年度中に完成させる計画を立てました。しかし、流動的な面がありやれるものから手をつけて行っているのが現状で、詳細については、別の機会に述べさせていただきます。

このPro.21を進めるに当たり、従来と異なる点について述べさせて頂きます。日本ハンドボール協会の事業は様々なものがありますが、すべて上記3つの具体的な目標、則ち、普及、強化、自立の三本柱を個々にではなく一体のものとして進めていることです。

日本ハンドボール界の実力を示すものとしてナショナルチームの国際舞台での活躍があります。しかし、ともすればそれを実現化しようとするあまり、強化に力が傾注、普及という大事な土台の部分を都道府県や連盟任せにしていたきらいがありました。ハンドボール協会にとってナショナルチーム強化は常々の最大の事業であることはもちろんですが、そのためには将来に向かって強化のための盤石の土台を作っていかなければなりません。普及を推し進め、そこから年代別のナショナルチームへと繋がるシステムを作っていくことが必要です。

その実行プログラムがジュニア3000プロジェクト（J3000Pro.）とNTS(ナショナルトレーニングシステム）です。それらを都道府県協会・連盟と連動し、粘り強く進めていくことが最大のポイントになります。J3000Pro.は小学生を中心としてマスターズまでの地域のクラブチームを3000チームを作っていくことです。日本のハンドボール人口のほとんどが、中学、高校、大学の学校教育の中での活動に支えられています。勿論、さらなる学校の活動の充実も必要なことですが、自分の住む地域でハンドボールができるクラブの育成も生涯ハンドボールを進めていく上で不可欠です。そのためには原動力になってくれる指導者が必要です。ハンドボールが協会を組織して今年で約70年になります。それを可能にさせる人材はいるはずです。ハンドボールを経験したＯＢ、ＯＧ更にハンドボールに関心を持つ人が指導者となってチーム運営に携わる環境を整えなければなりません。都道府県協会、連盟のPro.21に対する理解は深まり、徐々にその機運は高まってきており必ず出来るものと思っております。今年度から始まった全国中学生ハンドボール大会は、クラブチームが参加できる大会であり、各都道府県1チームが参加できることから小・中学年代の普及とクラブの育成に大きな意味のある大会であり、普及を進める上で大きな柱が立ったといえましょう。

最後にPro.21の前提として、ハンドボール競技そのものが、国民にとって魅力があり、社会に役立つ性質をもっていなければなりません。やっておもしろく、見て感動する競技であり、益々魅力あるスポーツとして磨いていかなければなりません。日本で開催した講習会でデンマークから来日したアラン・ルンド氏が言っていた、「デンマークではハンドボールは文化である。ハンドボールは日ごろの話題になっている」は非常に印象的でした。その意味で日本でまさにハンドボールが文化となる日が早くきてほしいと思います。ハンドボールに関係のある人、あった人が今一度、ハンドボールを思い起こし、それぞれの立場で盛り上げていくことが必要と強く感じています。

第57回全日本総合ハンドボール選手権大会

古豪復活！

男子・大崎電気、16年ぶり9度目の優勝
女子・オムロン、7年ぶり9度目の優勝

昨年末、12月21日（水）から25日（日）までの5日間、福井県福井市の福井県営体育館、北陸電力体育館フレアを会場に、男子16チーム、女子12チームが参加して熱戦が繰り広げられました。
男子決勝戦は、大崎電気が38 - 32で大同特殊鋼を降し、実に16年ぶり9度目の優勝を飾りました。女子の決勝戦は、オムロンが35 - 23と広島メイプルレッズを圧倒、7年ぶり9度目の優勝を飾り、男女とも“古豪復活”を印象付けた全日本総合選手権となりました。

男子優勝：大崎電気

大崎電気チームの歴史と運営



大崎電気ハンドボール部監督　首藤 信一

第57回全日本総合ハンドボール選手権大会では16年ぶり9回目の優勝を飾ることができました。昨年のあの悔しさをスタッフ・選手全員忘れずに戦い、優勝を果たせたことを大変嬉しく思います。

勝因としては、試合中にディフェンスが修正をかけGKと連携を取りながら戦うことができたこと。それにより速攻、クイックスタート、セットオフェンスへとスムーズにつながり、出場選手が自分の役割を果たしたことが上げられます。

運営に携わった関係者各位にお礼を申しあげます。ありがとうございました。

さて、1960（昭35）年に創部以来、全日本総合8回、全日本実業団に不滅の10連覇を含む13回、国民体育大会にも14回の優勝を飾るなど、実業団チームの“草分け”としてつねに日本ハンドボール界をリードし創成期から10年余りは「全日本イコール大崎」といわれるほどの黄金時代を築きました。また昨年は悲願の日本リーグ初優勝も飾ることが出来ました。

そして今、チームは創設以来、赤と黄のシンボルカラーのもと、燃える軍団として異名をとり、球史に輝かしい足跡を残してきた大崎電気ハンドボールが、あくなき勝利を求めて前進を続けています。

チームのセカンドネームは「OSAKI OSOL」。イタリア語で地球の核を意味する「OSOL」（オーソル）には、マグマのごとく熱く燃え、ハンドボール界の中心勢力として活躍しようという決意、さらには97年5月、アジアで初の世界選手権を熊本で開催、20万人を越える大観衆のもとで国内外の注目を集めたハンドボールを、よりメジャーなものに引き上げたいという強い願いが込められています。また、「O.S.O.L」は、英語で「空を飛び、海を越え、大地を駆ける」という頭文字を合わせたものです。

創部から40年が過ぎ、日本リーグチームの中で最も古い歴史を持ちながらも、不変のチャレンジ精神で、さらに新しい伝統づくりに邁進していく決意に変わりありません。新キャプテン東、日本代表へ7名（中川、東、永島、豊田、前田、宮崎、猪妻）コーチ兼任の岩本をはじめ、円熟味を増したベテラン勢に加え、中堅、若手の台頭でバランスのよい布陣が形成され、「強い個人」をベースにしたアグレッシブなプレーを展開させてライバルたちに立ち向かっていきます。日本はもちろん、世界の舞台で活



写真提供・スポーツイベント社

躍できるチーム作りが目標です。ファンの皆様に大きな感動を持ち帰っていただけるよう、躍動感あふれるハンドボールをお見せしますので、絶大なる応援を宜しくお願いします。

また、チーム運営として2004年度よりGM体制をとり、「サポーターズクラブ」を設立しました。

現在、企業スポーツは地域スポーツへの転換期を迎えています。これは、母体としての企業に全てを委ねるのでなく、地域住民を巻き込んだ形でのチーム存続を図っていかなくてはならない時代になったという事です。今後大崎電気がハンドボール部を継続させていくために「地域密着」「社会貢献」の側面を強く打ち出した「大崎オーソル・サポーターズクラブ」を設立しました。サポーターズクラブの設立により、ファンとの交流を深め、チームの認知度を上げることにより日本リーグおける観客動員を増大させ、将来的に観客動員で収益をあげることの出来るような状態を目指すとともにハンドボール界全体の発展にも寄与ししたいと考えています。

全日本総合 16年ぶりの優勝!!



大崎電気ハンドボール部主将　東　俊介

昨年の決勝戦で残り時間2分で4点リードをしているという絶対的に有利な状況から逆転負けを喫してしまっていることもあり、スタッフ、選手ともども特別な想いを持って大会に臨みました。準々決勝の北陸電力、準決勝のトヨタ車体との試合に勝利し、決勝戦に進出。相手は大同特殊鋼。大同には7月末の全日本実業団選手権の決勝戦で敗れており、私たちにとっては2つの意味でのリベンジマッチとなりましたので、決勝戦前日のミーティング時からチームの中にはほどよい緊張感と熱い闘志がみなぎっていました。試合は序盤に奪われたリードを宮崎、岩本を軸に全員が絡んだバランスの良い攻撃で逆転しリズムを掴むと、中盤以降は永島、佐藤を中心としたDFとGK濱口の連係が機能し、大同の強力なOFを封じ、中川、豊田らの速攻に繋げるという理想的な展開になりました。終盤に奇しくも残り時間2分で4点リードという昨年と同じ状況になりましたが、昨年の苦い経験を活かしてチーム一丸となって乗り切り、16年ぶりに優勝を飾ることが出来ました。この決勝戦では、MVPを獲得した宮崎をはじめOF、DFともに一人ひとりが自分のやるべき仕事を高いレベルでしっかりとこなした事が勝因として挙げられると思います。今後はもっと退場を減らして、安定したゲーム運びが出来るようにしていきたいと思います。

最後になりますが、この大会を運営するにあたりご尽力いただいた関係各位の皆様に深く感謝を申し上げます。

女子優勝：オムロン

コート上で感動を与える試合を



オムロンハンドボール部監督　黄　慶泳

優勝の喜びと勝因、印象に残った試合

7年ぶり9度目の優勝が出来て嬉しいし、何よりも広島に大差で勝っての優勝だから、言葉には表現出来ない喜びがあった。しかし、これは厳しい状況の中でも自分たちがハンドボールに専念出来る環境を作って下さったオムロングループの多大なる支援と、応援して下さっている皆様の思いがあっての優勝だと思っているので感謝している。印象に残っている試合は、そういう意味でも結果として現れた決勝戦。

選手への言葉

常に勝ちたいという事を考えながら厳しい練習を耐えて来て、今回はその喜びを味わう事が出来た。

これに止まらずまた上を目指して頑張って行き、そしてオムロンを応援して下さっている皆様に感謝の気持ちを持って恩返しが出来る様にまずはコート上で感動を与える試合が出来る様に絶えず努力をして欲しい。

今後の課題と抱負

勝利と共に女王の座を奪い取ることは出来たけれど、これからはそれを守り続けなければならない。一時期だけではなく、今までと同様に強いチームでありたいし、伝統を守って行きたい。その為には若手の育成を課題として取り組んで行きたい。ただ若手にチャンスを与えるのではなくて、しっかりと戦える選手に育てなければいけないし、その選手にチャンスを与えなければならないと思っている。



写真提供・スポーツイベント社

チームの歴史と運営

1974年大洋デパートから移籍してから創部30周年の歴史の中で、日本リーグ優勝10回、全日本実業団選手権優勝5回、国民体育大会優勝10回、全日本総合選手権大会優勝7回など現在まで32回の全国大会優勝を持つ伝統のチームである。現在は地域密着とハンドボールの普及の為に中学生と高校生のオムロンカップの開催、部員が総合型地域スポーツクラブの指導、各種講習会の指導、そして山鹿地域小学校の授業の中で巡回指導なども活発に行っている。

全日本総合 7年ぶりの優勝!!



オムロンハンドボール部主将 **佐久川 ひとみ**

「ホッとした。」試合終了後、嬉しさよりこの気持ちの方が大きかったです。

正直実感がわいたのは地元の山鹿に帰ってきてからでした。会社の方や地域の方など沢山の方に「おめでとう」という言葉をいただき、日が経つほどに優勝したことを実感しました。全日本総合は何としても取りたかったタイトル、今大会を振り返ると「勝ちたい、優勝したい」という気持ちが今までとは違ったと痛感しています。それは、独自のホームページ立ち上げや広報誌の作成、チームマスコットや応援グッズをつくるなどこれまで以上に強力なバックアップをしていただき、今年度から私たちを取り巻く環境が大きく変わってきたからです。

決勝戦ではオムロンの武器とするDFで足が動き、そこから守って速攻という展開で流れをつかめたと思います。何より全員が60分間集中して戦いました。しかし広島は勝ち方を知っているチームなので、これからが勝負だと感じています。今後は今以上に安定したDFや確率の高いシュートを心がけながら、選手個々の強さも向上させていかなければと考えています。

今大会の優勝は日ごろより応援してくださっている皆様のご支援、ご声援があってこそ、今後も感謝の気持ちを忘れずに日々取り組んでいきます。ありがとうございました。

戦評

■男子：準決勝

大崎電気 41 (20-14, 21-16) 30 トヨタ車体

先制したのはトヨタ車体、鶴谷の豪快なミドル。対する大崎電気は猪妻が速攻を決め、序盤はシーソーゲームとなる。しかし、19分過ぎ、大崎電気が宮崎のステップシュートで3点差とすると、中川、豊田の連続得点で一気に差を5点まで広げる。トヨタ車体もタイムアウトで流れを変えようとするが、そこからは一進一退の攻防が続き、前半は6点差で大崎電気のリードで終わる。

後半、巻き返しを図るトヨタ車体だが、ミスが続き、逆に大崎電気は猪妻、岩本らの連続得点で差を10点に広げる。トヨタ車体はタイムアウトをとり、野村を中心に攻撃を仕掛けるが、大崎電気の堅いディフェンスを崩すことは出来なかった。大崎電気は、最後まで攻め続け、決勝進出を決めた。

大同特殊鋼 35 (16-14, 19-12) 26 湧永製薬

どちらも堅い守りで前半10分まで3－3のロースコア。試合が動いたのは15分過ぎ。湧永の退場時に大同は速攻と白の強打で10－7とする。その後、大同の退場時には湧永は山中、小沢の両サイドシュートで追いすがるが、大同が趙の1対1や渡久川のポストプレーで踏ん張り、点差が詰まらない。16－14と大同リードで前半終了。


写真提供・スポーツイベント社

後半立ち上がり、湧永・小沢の連取で同点となるも、大同はDFのプレスとGK高木の好技を速攻につなげ、セットDFでは白、趙の個人技で着実に加点。10分には25－16となる。その後も大同に退場者が連続して出るが、湧永は連続得点が出来ないまま時間が経過。終盤に大同が7連続得点。最後まで走りきった大同特殊鋼が35－26で決勝進出を決めた。

■男子：決勝

大崎電気　38（18-16, 20-16）32　大同特殊鋼

大同・白、大崎・宮崎のシュートがそれぞれ鮮やかに決まり、序盤から接戦の様相を見せる。しかし、大同、GK高木の連続ファインセーブから、白、趙、末松のスリークロスからステップ、ブラインドシュートなど多彩な攻め方が出て、9分過ぎには5点差まで点差が広がった。たまらず、チームアウトを取った大崎はここから流れをつかみ、12分過ぎには2点差まで詰め、6－8。しかし、スピードとテクニックを駆使し、末松、白の連続ジャンプシュートから大同は一気に引き離しにかかる。一進一退を繰り返す中、大崎・岩本の3連続、豊田の2連続得点でついに22分過ぎに同点。ペースをつかむ大崎はそのまま走り、前半2点差をつけてリードした。

写真提供・スポーツイベント社

後半、大同は速い攻めから3分過ぎに同点に追いつく。互いにシュートを放つも両キーパーが体を張ってシュートを止め、どちらに転んでもおかしくない展開となる。しかし、10分過ぎから徐々に大崎が宮崎のシュートなどで、16分過ぎには7点差がついた。大同はクイックスタートなどから再び流れに乗り、一時、3点差まで迫るが、シュートミスや大崎、GK濱口の好セーブ連発で試合は大崎ペースとなった。結局、6点差で大崎が勝利した。

■女子：準決勝

広島メイプルレッズ　31（15-8, 16-16）24　北國銀行

前半1分、メイプルの速攻で試合が動く。北國はその後、3連続得点をあげるが、メイプルも追い上げ一進一退の試合展開となる。13分過ぎに北國の退場者を機にメイプルは6連続得点で10－4とリードを広げる。その後、北國は速攻やセンターがサイドへの切り替えしからサイドシュートを狙うが、キーパーの好セーブでなかなかリズムが作れない。メイプルが着実に加点し、結局7点差で前半終了。


写真提供・スポーツイベント社

後半開始早々、北國の速攻が決まり、追撃ムードが高まるが、メイプルのディフェンスの寄りが早く北國の攻めの決め手が見えない。これに対し、メイプルは相手のミスに乗じ得点を重ねていく。メイプルはポストプレー、センター、フローターのステップシュートなど多彩なプレーで北國を圧倒した。時折、北國はサイドシュートや速攻で流れに乗ろうとするが、退場者が続出し、力を発揮することが出来ず敗退した。

オムロン　33（19-13, 14-14）27　ソニーセミコンダクタ九州

最初にリズムをつかんだのはオムロンで、佐久川のゴールを皮切りに11分までに5－1とリード。高い壁と抜群の脚力で守るオムロンは、田中、郭で追撃に来るソニーを跳ね返す。21分、センター・安心院のシュートで14－9とすると、更にオムロンが加速し、前半を19－13で終える。

後半に入ると、ソニーはオムロンの洪をマンツーし、反撃を試みる。しかし、退場者が続出するソニーに対し、オムロンは3分に23－13と10点リード。このまま決まってしまうかと思われたが、ソニーは田中、郭、そしてGK飛田で粘り、12分には24－20に。オムロンの強固なDFとソニーの郭が負傷退場したこともあり、27分には33－27とオムロンがゲームを決める。結局、33－27でオムロンが勝利。

■女子：決勝

オムロン　35（15-9, 20-14）23　広島メイプルレッズ

ゲーム序盤は、オムロンのDFに「らしさが」見られず広島のペースで、9分には6－2。しかし、燃える黄ヘッドコーチとオムロンセブン。14分には5連取となる許の「世界のポストプレー」で場内の度肝を抜くポストシュートで逆転。広島は、呉と金が反撃に転じたいが、退場者がかさんだこととオムロンDFの伏兵・西本とGK勝田のファイトあふれるプレーに大苦戦。前半は15－9。広島はどう反撃するか…。

反撃の糸口をつかみたいが、後半もオムロンの鉄壁DFと守護神・勝田が金、呉そして青戸を中心に粘る広島を突き放す。9分には21－11とし、完全にペースをつかんだオムロンは、どうしてもかみ合わない広島を寄せ付けない。25分、負けられない広島は、呉、大前で25－20としたものの、本来の底力が発揮できず失速。オムロンは、ルーキー・久野と西本の頑張りが嬉しい誤算となり、これにつられた水野の速攻、佐久川の巧技が更に勢いとなった。結局、35－23でオムロンの圧勝。静かな福井の街で、訪れた1,100人の観客の心に感動を与える。オムロンの7年ぶり9度目の優勝に場内は沸いた。


写真提供・スポーツイベント社

第14回 JOCジュニアオリンピックカップ2005 ハンドボール大会詳報

標記大会は前号既報の通り、昨年末の12月25日～27日まで、大阪府堺市を会場に開催されました。今号では主催者、地元、男女各優勝チームの声をお伝え致します。
※大会結果はスコアールーム②（p. 20）に掲載致します。

主催者の声

熱き戦い —JOC2005—

（財）日本中学校体育連盟九州ブロック長　仲田　靖（沖縄県西原町立西原中学校）

全国各地で記録的な大雪のこの冬、今年も大阪府堺市において JOC ジュニアオリンピックカップハンドボール全国大会が開催されました。

開会式では、アテネオリンピックゴールドメダリスト、レスリング女子 55 kg級の吉田沙保里選手が激励に訪れ、夢の金メダルについてのお話に熱戦を予想させる開会式になりました。各ブロックを勝ち抜いた男女各 15 チームに地元堺市選抜を加えた 4 チームずつの予選リーグは、予想通りの熱戦が展開されました。

準決勝へ駒を進めたのは男子 A ブロックが夏の全中で優勝したけやき台中学校を中心とした茨城選抜、2 勝 1 敗で 3 チームが並び激戦となった B ブロックは山口選抜、C ブロックは抜群の攻撃力を誇る愛知選抜、D ブロックは初の準決勝進出に沸いた兵庫選抜。女子 A ブロックは確実に白星を重ねた福井選抜、激戦となった B ブロックは、接戦をものにした沖縄選抜、C ブロックは攻撃に勝る大分選抜、D ブロックは高さを誇る奈良選抜が最終日の準決勝へ勝ち上がった。

男子準決勝は、茨城選抜対山口選抜、愛知選抜対兵庫選抜の対戦となり、地力に勝る茨城選抜と愛知選抜が決勝へと駒を進めた。一方女子準決勝は、福井選抜の追撃を振り切った沖縄選抜、大型チーム同士の対戦となった大分選抜対奈良選抜は一点差で奈良選抜が決勝へ進出した。

先に行われた女子決勝はディフェンスが冴え、3 人のゴールキーパーを駆使し最後まで主導権を握った沖縄選抜が 5 年ぶり 2 回目の優勝を飾る。男子は今年度中学校界最高峰の舞台にふさわしく残り数秒で息詰まる展開となり、茨城選抜が一点差で愛知選抜を振り切り、4 年ぶり 3 回目の優勝を飾った。準決勝、決勝に限らず予選リーグから手に汗握る好ゲーム、パワープレー、テクニックに会場がどよめくシーンありと随所に見所のある大会となった。

閉会式では、オリンピック有望選手が発表された。受賞者 3 人には将来の日本を代表する選手へとの期待を込め大きな拍手が贈られた。受賞した選手の他にも今後の活躍の期待できる選手が多数いたこともこの誌面をお借りしご報告致します。

最後になりますが、今大会の開催にあたりご尽力頂きました地元堺市と大阪ハンドボール協会をはじめ、（財）日本ハンドボール協会、（財）日本中学校体育連盟、その他多大なご支援、ご協力を頂きました皆様の今後のご発展、ご活躍を祈念し結びの言葉といたします。

地元開催地の声

回を重ねるたびレベルアップされる試合と大会

JOC大会事務局　逢阪　静男（大阪体育大学附属中学校）

第 14 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 2005 ハンドボール大会が、大阪府堺市の家原大池体育館と金岡公園体育館で開催されました。出場チーム数が 16 チームになって 3 年目、男子が東北ブロック、中国ブロック、女子が北信越ブロック、四国ブロックからそれぞれ出場枠が 2 チームとなり、厳しいブロック予選を突破した男女 32 チームが勢ぞろいして、例年にない寒い中での熱い戦いが繰り広げられました。

この大会は、夏の全国大会と違って各都道府県の選抜でチーム編成されていて、中学時代で完成された体力と、精神力、技術を身につけ、目的意識を持った選手が出場しています。そのため、回を重ねるたびに試合の内容もレベルアップされ好ゲームが展開されるようになってきました。この大会に出場した選手の多くが高校、大学、社会人チームに所属し、それぞれの場所で活躍しつつあり、近い将来日本代表選手としてオリンピック、国際大会に出場し、球界をリードする選手に成長してくれるものと思われます。

開会式には日本オリンピック委員会・競技者育成部会長の蒲生晴明さんよりお話を頂き、さらに激励の言葉として、レスリングのアテネオリンピックゴールドメダリストであり、国際大会 93 連勝中の吉田沙保里さんと、ナショナルチーム女子ヘッドコーチの栄和人さんより心強い励ましのお言葉を頂き、選手の皆様も種目は違うが、将来の自分に置き換えて希望が持てたようでした。

今大会も予選リーグから接戦の試合が続出し、女子の大阪選抜対沖縄選抜戦、男子の山口選抜対大阪選抜戦は 1 点で予選リーグ敗退か、準決勝進出かの明暗を分ける試合でもあ

りました。また、女子の準決勝は福井選抜対沖縄選抜、大分選抜対奈良選抜戦共に接戦の試合で大分選抜は連続優勝をなし遂げました。対する奈良選抜は夏の大会の無念さを晴らすべく好ゲームになりました。また男子準決勝では少し点差が開きましたが、決勝戦では一進一退の攻防で終了の笛が鳴るまでわからないゲームでした。結局女子は沖縄県選抜が5年ぶり2回目、男子は茨城県選抜が4年ぶり3回目の優勝を飾りました。そして、注目のオリンピック有望選手には兵庫県選抜の糟谷周穂君（兵庫県浜の宮中学校）、同じく宮本克哉君（兵庫県高砂中学校）、茨城県選抜木村昌丈君（茨城県鬼怒中学校）が、最優秀選手には女子沖縄県選抜上原未希さん（沖縄県浦添中学校）、男子最優秀選手には茨城県選抜三富康平君（茨城県けやき台中学校）が受賞しました。

この大会を開催するにあたり日本オリンピック委員会、日本ハンドボール協会、全国中学校体育連盟、近畿中学校体育連盟をはじめ、全国から集まっていただいた審判員の皆様には豪雪の中大阪まで足を運んでいただき本当にありがとうございました。また、地元大阪協会、大阪高体連、堺協会、大阪中体連の協力により運営されましたが、大阪体育大学の学生、各中学校の補助委員の皆様に協力いただいたことにより更にスムーズに競技が進行できました。関係各位の皆様には心より感謝しております。

平成18年度は第15回大会となり、第1回ジュニアオリンピック大会が開催された年に生まれた選手達が参加する大会になります。第15回大会も大阪、堺の地で開催します。記念大会としてより盛り上がるよう計画してまいります。選手の皆様、堺で大いにはばたいて下さい。


写真提供・スポーツイベント社

男子優勝チームの声

素晴らしいチーム、そして多くのバックアップに感謝

茨城県選抜男子チーム監督　増田　徹（守谷市立けやき台中学校）

茨城県選抜男子チームとしては4年ぶり3度目の優勝を成し遂げることができました。今までの多くの先輩たちが残してくれた良き伝統を守り、さらに新たな歴史を刻むことができたことはこの上なく嬉しいことです。選手、スタッフ共々、大きな喜びがわき出てきました。この優勝が大きな意味を持ち、茨城県のレベルをさらに高める起爆剤となると信じています。

今大会は、第10回大会に続いてずばり、3度目の優勝を狙って大阪入りしました。昨年までの悔しい1点に泣いた予選リーグ敗退を思い起こし、一戦一戦に集中し、持てる力を発揮し、ベストを尽くしたいと心より願ってトレーニングをしてきたからです。

私の茨城選抜監督をしての思い出は数多くありますが、中でも悔しい思い出は関東大会で敗退した平成14、15年度大会です。特に平成13年度に全国優勝をした翌年で、関東ブロック予選敗退は今でも脳裏に焼き付いています。チームとしてではなく、代表選手2名と優勝旗等を大阪まで返還に行ったこと、そして翌年も関東ブロックで敗退し、大阪に行けなかった悔しさなどは毎年、選抜チーム発足の際に選手やスタッフにその悔しさを伝えてきました。大阪まで駒を進めても予選リーグで敗退した平成12年度と昨年度はまた違った悔しさを経験することができた年でした。特に昨年度は「十分ベスト4は狙える！」と練習から手応えを感じての大阪入りだったのですが、残念ながら予選最終戦での失速、選手共々悔し涙を流した記憶がよみがえります。このような数々の苦い経験を土台にしての今年度、夏に続いて優勝をという多くの方々からの期待を胸にプレッシャーが若干はありました。しかし、いかに一戦一戦ベストを尽くして悔いのない戦いができるか？ということにエネルギーを注ぎました。本大会に参加するにあたり、引率も兼ねてのチームスタッフは8名、さらには県内でも名医と有名なスポーツ整形外科医（下條先生）の勧めで優秀なトレーナー（関澤氏）が帯同していただけました。「こんなに素晴らしく恵まれたチームは日本中で他にない」と選手達に伝え、多くの方々の熱い協力の下、8月末から12月までの週末を中心としてトレーニングを進めてきました。その間に県内の有力な高校（伊奈・藤代紫水高校）の先輩や筑波大学女子選手たち、そして水上一先生や滝川一徳先生、飯村裕志先生らの温かいご支援を頂き、合同練習を通して実践力を高めることができました。さらには県ハンドボール協会の先生方はもちろんのこと、多くの先生方から励ましやご協力を頂きました。そして、保護者の方々の練習や大会での温かいサポート等々がありました。



写真提供・スポーツイベント社

チームのハンドボールの特徴、持ち味は固いディフェンスからの速攻、オフェンスでのコンビネーション。苦しい時に



写真提供・スポーツイベント社

粘れるチームで、チームワークが良く、前向きな選手が多いことでした。予選リーグからのすべての試合が印象に残っていますが、特に決勝での愛知選抜戦は特に印象深いものでした。選手の個人能力では大きく差が見られ、予想通りの苦しい試合となりました。しかし、予選リーグから厳しい場面を何度も経験することができたので目標とした優勝に向けて最後まで辛抱し、よく粘れたのだと思います。

優秀選手に選抜されたメンバーはもちろんのこと、一人一人が良い面をコートで見せてくれたと思います。ピンチの時に強気でプレーする選手や、いつも声を出してチームの雰囲気を盛り上げるムードメーカー、苦しいゲーム展開でもチームを勝利に導くきっかけをつくるラッキーボーイ的な選手

チーム構成
選手：守谷市立けやき台中７名（全中優勝メンバーより３年４名２年３名）
つくば市立手代木中３名（読売旗大会優勝メンバー・県総体３位）
行方市立麻生中２名（県総体３位）
水海道市立水海道西中１名（県総体２位）
水海道市立鬼怒中１名・守谷市立御所ヶ丘中２名（県総体ベスト８）
スタッフ：選抜メンバー所属中学校の顧問やコーチ、
県中体連専門部委員長、協力トレーナー

等々…。16名の選手が各々の立場や役割を自覚し、精一杯、真剣にチームのためにゲームを戦ってくれました。大変チームワークの良いチームで、６つの中学校からの選抜とは思えないほど良くまとまっていました。

１、２年生のチームの強化を図りながら指導するスタッフの努力、協力を惜しまない先生方に感謝いたします。毎回の練習に参加するため車で１時間30分以上もかけて練習に参加した選手やスタッフ、保護者の方にも感謝いたします。

これらすべてに心より深く感謝して大会に臨み、中学生最後の大会で優勝できたことは最高の喜びです。ありがとうございました。

女子優勝チームの声

素晴らしいチーム、そして多くのバックアップに感謝

沖縄県選抜女子チーム監督　**東江　功子**

今年の沖縄選抜女子チームは、浦添市の３校を中心に９月に結成しました。九州予選終了後、選手と共に、一戦必勝を掲げ、最後は全国優勝を目標に練習に励んできました。平日は週２回、個人戦術、チーム戦術の向上を図るためのトレーニング、土、日は、ゲームマッチで、成果や課題の確認を行い、次への練習へと組み立てるというサイクルで練習し、チームとしての仕上がりも順調でした。

しかし、12月に入り、暖かい沖縄でも、寒さや悪天候で、体調を崩す選手が増え、出発直前にインフルエンザにかかる選手が２人出るなど、少し不安を抱えながらの大会入りでした。全国大会ともなると各ブロックを勝ち抜いてきた強豪ばかりです。どのチームとも予選リーグから厳しい戦いでした。特に、大阪戦は、終了間際までもつれ込む大接戦で、あの勝利は大きかったと思います。宿舎に帰ってから、自チームのビデオを見て課題や悪い点の見直しを図りました。岡山戦はディフェンス面では少しずつ改善され、攻撃では、負傷で試合に出られないセンター平良や病み上がりで調子の上がらない森をフローター陣の山城、前田、渡久山らがカバーしながら、両サイドの池原、佐和田がいい働きをしてチームを盛り上げてくれました。

準決勝の福井は、スピードがあり、１対１を果敢に攻めてくるので、守りは間を割られないようにカバーリングを早くすることを意識させ、攻撃は、練習してきたことを自分たちで確認しながら積極的に前を攻めることを指示しました。決勝進出を決めた後、選手たちは凄く落ち着いていて、いつものはしゃぎはなく、何かをしてくれるそんな予感がありました。この日は、『選手を信じよう。全員で戦おう』という思いが自分自身の中で強くこみ上げていたのを覚えています。スローオフの笛が鳴り、試合が始まりましたが、いろいろな場面で何の迷いもなく選手の起用が浮かんできました。選手一人一人が伸び伸びとプレーし、みんながヒーローという雰囲気で一番いい試合ができたと思います。

このようなすばらしい結果が得られたのは、選手たちの層の厚さやお互いを認め合うチームワークの良さ、また父母会の皆様の強力なサポート、そして充実したスタッフ陣、沖縄県ハンドボール協会や浦添市のバックアップなどのお陰です。選手たちにとって、この全国優勝は大きな喜びであり、すばらしい経験です。いろいろな方たちへの感謝の気持ちを忘れずに、自分自身の更なる飛躍を目指し、今後も活躍してほしいと願っています。

最後に、今大会の運営にあたり、ご尽力くださいました各関係の皆様に厚く御礼申し上げます。



写真提供・スポーツイベント社

立山アルミ

平成16年度
地球温暖化防止活動
環境大臣賞
受賞

自然換気システム「NAV-Window-21」は、各地の体育館・大空間施設で採用されています。

安濃町安濃中央総合公園体育館

日本体育大学健志台キャンパス体操競技館

東京外国語大学屋内運動場



建物を呼吸させよう

風の道をつくり、自然換気をする建築は、世界的に見て、確かなひとつの流れとなっています。
NAVウィンドウ21は、「風」という自然エネルギーを利用した、爽やかで効率のよい自然換気を実現するシステムです。

自然換気システム商品シリーズ

NAV-Window-21

〈スウィンドウ／ウィンコン／キャブコン〉

「平成16年度地球温暖化防止活動環境大臣賞 受賞」について

当社が実施してきた10年間に亘る自然換気システムの開発への評価、また製造販売活動を通じ自然換気システムを採用いただいたビル建築が100件を超え、年間で13,000tのCO_2排出削減（森林面積で5,600ha≒皇居面積の約60倍相当）に貢献している点が評価されました。

立山アルミニウム工業株式会社
本社/〒933-8602 富山県高岡市早川550〈ビル建材事業部〉 TEL (0766) 20-3321
立山アルミ ホームページ http://www.tateyama.co.jp/

ANA CUP 第30回 日本ハンドボールリーグ プレーオフ 迫る！

ANA CUP 2005-2006 PLAY OFF
HANDBALL
in Komazawa 2006 3/18(SAT)～19(SUN)
言葉では表現できない怒濤のスーパープレイ。
予想できない芸術的なシュート。
感動はこの舞台から生まれる。
JAPAN HANDBALL LEAGUE SUPER STAGE in Komazawa
30th Anniversary since 1976

昨年９月に開幕し、全国各地で熱戦が繰り広げられている第30回日本リーグも、３月５日（日）にレギュラーシーズンを終え、いよいよ優勝を決定するプレーオフを迎えることとなりました。昨年度と同じく、男子はレギュラーシーズン上位４チーム、女子は上位３チームが出場します。

昨年度の優勝チーム・男子は大崎電気、女子は広島メイプルレッズが今年もすでにプレーオフ出場を決めており、連覇に挑む大会となりますが、他チームと実力は互角、トーナメント方式の一発勝負での戦いは、手に汗握る熱戦が期待できます。是非その熱戦を会場でご観戦いただき、素晴らしいプレーをお楽しみください。

プレーオフ出場チーム（2006年２月12日現在）

男子…大同特殊鋼，大崎電気，湧永製薬（３チーム）
女子…オムロン，広島メイプルレッズ，ソニーセミコンダクタ九州

日	開催地	会場	組み合わせ
３月18日（土）	東京	駒沢体育館	13:00～ （１）女子・プレーオフ準決勝 （通算２位）vs（通算３位）
			15:00～ （２）男子・プレーオフ準決勝 （通算１位）vs（通算４位）
			17:00～ （３）男子・プレーオフ準決勝 （通算２位）vs（通算３位）
３月19日（日）	東京	駒沢体育館	13:00～ 女子・プレーオフ決勝 （通算１位）vs（１）の勝者
			15:00～ 男子・プレーオフ決勝 （２）の勝者vs（３）の勝者

☆会場；駒沢体育館――東急田園都市線「駒沢大学」駅下車、徒歩15分

☆ＴＶ放映；男女準決勝、決勝の計５試合をテレビ神奈川でゴールデンタイム放映予定

◎対戦カード他、最新情報は日本ハンドボールリーグＨＰをご覧ください。ＨＰアドレス；http://www.jhl.handball.jp/

宮崎大輔 スポーツNo.1を語る



写真提供：TBS

前号既報のように、宮崎大輔選手（大崎電気）は、TBSテレビ「スポーツマン№１決定戦」で大逆転の末“総合№１”に輝きました。競技は６種目の総合成績で争われます（クイックマッスルは得点に入れない）。ハンドボール選手として全種目に参加し、様々な競技から選ばれたトップアスリートの中、総合優勝をしたのは初めてで、快挙です。今号では宮崎選手に伺った当日の様子、成績を掲載致します。
尚、次号から３回にわたって久保弘毅さん（フリー・ハンドボールライター）による「宮崎大輔物語（仮題）」を、掲載する予定です。お楽しみに。

—今回の企画はどの様に決まったのですか。

はじめは、「BODY」という番組の取材から始まりました。「スポーツマン№1」は前から知っていたし、昔から出てみたいと思っていましたので二つ返事で出場を決めました。テレビで観ていた時から、自分ならこうするのに、どうしてできないのかなどと考えていたので自信はありました。

—収録はどの様に行われたのですか。

収録は11月30日、場所は幕張で行われ、朝の８時から、翌日の朝４時までかかりました。日本リーグ中だったので大変でした。会場は和気藹々としていたと思います。

—どの様な気持ちで参加しましたか。

やるからには優勝を狙う気持ちはありました、それからハンドボール代表という気持ちも大きかったです。自分が頑張ることで、より多くの人にハンドボールを知ってもらいたいとも思いました。

—はじめの種目、スラロームランで失敗しましたね。

ほんとパニック状態で、かなり落ち込んでしまいました。チームメイトに電話して励まされたり、会場内の関係者に慰めてもらいました。また、ハンドボール代表として出場しているので落ち込んではいられないという気持ちもありました。でも、最初の種目で最下位はこたえました。

—一番きつかった種目は何でしたか。

どれもきつかったですが、一番はテイル・インポッシブル（400ｍの勝ち抜き走）です。本当にきつかった、身体が動かないんですよ。パワー・ホース（綱引き）では大きなダメージを受けましたし、モンスターボックスは、本当に壁の様で恐怖すら感じました。最後のショットガン・タッチは集中していたので、あまり覚えていません。

種目番号	種目名	宮崎選手順位	総合順位	優勝選手と成績
①	スラロームラン ＆腹筋30回 ＆上りうんてい	1分18秒59 13位（最下位）	13位	池谷直樹 59秒11
②	ビーチフラッグ	3回戦進出 5位	7位	池谷直樹
③	モンスターボックス	19段成功 4位	4位	池谷直樹 22段成功
	クイック・マッスル	131回 7位		亀田興毅 250回
④	テイル・インポッシブル	決勝進出 2位	3位	なかやまきんに君
⑤	パワー・ホース	準決勝進出 3位	3位	青木宣親
⑥	ショットガン・タッチ	13ｍ10㎝ 2位	総合優勝	青木宣親 13ｍ30㎝

—他の参加者の印象は。

さすが一流のプロはすごいと思いました。特に野球選手の身体能力の高さには驚きました。しかし、負けるわけにはいきませんでしたから。

—総合優勝をいつから意識しましたか。

自分はハンドボールの代表、チャレンジャーですから常にベストを尽くしていました。優勝を意識したのは池谷さんがリタイヤし、可能性があるぞとスタッフの人に言われてからです。しかし、気持ち的には何も変わらないし、集中できていたと思います。

—総合優勝しての感想、勝因は。

ほんと、嬉しかった。しかし、今回の総合優勝は運だったと思う。もちろん運も実力、運を生かすのも力ではあるけれども。今回の優勝はハンドボールという競技の特徴を良く表しているのではないかと思います。どの種目でも自分は優勝していないんです。しかし総合では優勝、ハンドボールは走、跳、パワー、持久力、瞬発力、集中力、駆け引き、判断力、勇気などあらゆる能力が要求されるんです。その総合力と、運が自分にはあったんだと思います。

—ファンの皆様に一言どうぞ。

ハンドボールは実際に見るととてもスリリングで、パワフルで、魅力的なスポーツです。是非、会場に足を運んで下さい。多くの観客の声援は選手をハッスルさせますし、必ず満足させます。僕を見に来て下さい。

宮崎大輔選手を駒沢に見に行こう！！

宮崎選手の所属する大崎電気は３月18日・19日、駒沢体育館で開催される日本リーグ・プレーオフに出場を決めています。駒沢で宮崎選手の華麗なプレー、飛んでいるようなジャンプ力を会場で満喫下さい。

～リピートさせる演出は…～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

05年シーズンもあとわずかとなった。例年なら全国高校選抜大会が「ジ・エンド」だったが、そのあとに懸案だった春の全国中学生選手権が開催され、年度いっぱい目が離せないシーズンになったことは、喜ばしい限りである。

さて、球界全体にとって重要課題のひとつが観客動員であることはご承知の通りである。

「どうすればアリーナを埋め尽くせるか」

これは古くて、新しいテーマである。新春、日本リーグ女子の再開ゲーム、熊本で行われたオムロンvs広島メイプルレッズはなんと2,200人という大観衆が会場の山鹿市総合体育館を埋め尽くした。昨年暮れの全日本総合選手権決勝のリターンマッチというニュース性もあったのだろうが、オムロン・サイドの運営努力が実った結果である。

日本リーグの今シーズンの１試合平均観客目標は、男子が1,000人、女子が700人。前回に比べ男子が300人、女子が200人アップした。２月５日現在で総観客数は79試合を消化して58,750人。男子が57試合で43,022人、女子が22試合で15,728人となっている。１試合平均では男子755人、女子715人。女子は目標をクリアしているが、男子は序盤、終盤は1,000人台が多いが、中盤の伸び悩みが足を引っ張っている感じだ。

最多動員は先ほどの2,200人。男子の最多は昨年12月18日、大分で開催した1,582人。逆に最少は10月16日に福井での310人。女子は２月４日愛知での350人となっている。こちらは少々寂しすぎると言えるだろう。

それはともかく、30回を迎えたシーズンというわけでもなかろうが、今回は新しい取り組みが多く見られた。

そのひとつが男子の会場で配られる「SPIEL TAGE」（シュピール　ターゲ）という観戦の手引きとなるマッチデープログラムだ。カード別に選手のコメントやチーム情報が満載され、日本代表・冨本コーチの「見どころ解説」コーナーもある。世界を知り尽くしているトヨタ車体・酒巻総監督の力作だが、観客の評判も上々のようだ。

女子ではオムロンが「UNITE」（ユナイト）という広報誌を発行しているし、広島メイプルレッズでもホームゲーム用の「マッチデープログラム」を製作。個人データや選手、監督のコメント、注目選手などをＢ５判２ページに写真入で紹介している。また、抽選番号を印字してハーフタイムにプレゼントしている。とりわけ新春の第１戦ではドイツワールドカップサッカー公式球、今夏、日本で開催される世界男子バスケットボール選手権公式球というビッグなプレゼントだった。

また、試合前のレフェリーや選手、オフィシャルとともにモップ係を紹介する会場も現れたし、これまでのモップでなく、タオルを手にコートを拭く試みもされている。この手法は以前からバレーボールの試合では見受けられていたものだが、こちらも観客には好評だ。さらにメイプルレッズでは試合前、監督と注目選手にインタビュー。試合に賭ける決意を披露させ、ファンの注目を集めている。

このようにファンサービスにいろいろなアイデア、工夫が見受けられるが、これもファンを取り込み、地域とともに歩むことからの発想であることは間違いない。今後のチーム形態は実業団主流からクラブチーム主流に移行するスピードが加速するだろう。そうした中では地域との密着は避けられないし、地域に貢献して存在感をアピールしなければならないことは明白である。

とにかく、これまでのように「守りの姿勢」では地域と一緒に歩めない。それぞれが地域にあった創意工夫をして「攻めの姿勢」に転じることが重要だろう。会場を“イベント広場”に仕立て、見て楽しく、参加して満足、にしたいものである。

まだまだ工夫することはいっぱいあるだろう。それには発想の転換も大切。「殻を破る」－選手のプレーにも言えることではあるが、運営・演出にも当てはまる言葉ではなろうか。それによって「また足を運びたい」リピーターの輪が広がっていくだろう。

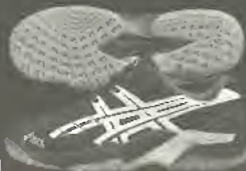


俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE
THH513 ¥12,600（本体¥12,000）
カラー：0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト
サイズ：23.0～29.0・30.0cm


0490


5001

株式会社アシックス


アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。（ ）内は消費税抜きの本体価格です。
http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

WHM

第１回男子ユース世界選手権（カタール）の分析②

3－3ディフェンス—システムと攻略法—

国際ハンドボール連盟（IHF）の機関誌による男子世界ユースユース世界選手権の分析第２弾として３－３ディフェンスの分析を掲載致します。分析は IHF（CCM）Dietrich Spate 氏、翻訳は岡本大氏（国士舘大学）にお願い致しました。
尚、原文には多くの連続写真が掲載されておりますが、本誌におきましては紙面の都合上２点の連続写真のみ掲載いたします。そのため文意が取りにくい部分がありますがご了承下さい。



翻訳：情報科学委員会分析サポートチーム男子サポートリーダー　岡本　大（国士舘大学）

３－３ディフェンスシステムについて

攻撃の組み立て時にはすでにディフェンス開始

変化する３－３ディフェンス

いくつかのチームがこの第１回ユース世界選手権で３－３ディフェンスシステムを使用していた。このシステムを基本として最も使用していたのが韓国であり、３人のディフェンダーは攻撃的にセンターライン付近から相手をディフェンスしていた。また相手と状況により、ゴールエリアに近い位置での守備的な３－３ディフェンス活動もすることが可能であった。

エジプトも６－０ディフェンスに加え、スタートディフェンスとして３－３ディフェンスシステムを使用した。この基本配置は非常に攻撃的なものであった。

アルゼンチンは守備で数的優位な時、即座に攻撃に圧力をかけることのできる時、この３－３ディフェンスを使用した。

３－３ディフェンスシステムの戦術的目的

- 攻撃を組み立て段階で混乱させる。
- 攻撃パターンを有するチームは完全に攻撃の再構築を余儀なくされる。
- 攻撃側はいつもと違って早い段階でディフェンスされるため、しばしばミスを生じディフェンス側のボール獲得となる。
- ボールを保持した１対１が引き起こされる。この１対１は高い位置での勝負となり、ディフェンス側がボールを奪ったり、オフェンス側の反則が引き起こされたりするので、ディフェンス側にとっては明らかに利点となる。

ボールの無いところでの変化には付いていく

攻撃側のプレーヤーが組み立て局面の時点で既にディフェンス側に妨害されている。もし攻撃側のボールを保持しないプレーヤーがゴールエリア付近に走りこむと、そのままマークしている相手に付いて行く。攻撃側のプレーヤーはマンツーマンにより高い位置からのパスに対してディフェンス側にマークされている。

ボール中心にゴールエリア周辺でカバー

３－３ディフェンスが純粋なマンツーマンディフェンス活動ではない。もし攻撃側のボールを所有しているプレーヤーがゴールエリア周辺でフリーな状態になったならば、マークしていた以外のディフェンダーがカバーする。

韓国の３－３ディフェンスシステム

連続写真１は攻撃側の組み立て局面において韓国のディフェンダーがいかにパ

連続写真１







スカットを成功させているかが表れている。

３－３ディフェンスにおいて２人で守る

ボールを所持している攻撃プレーヤーを大きくカバーしながら２人のディフェンダーで守備しようとするのも大きな特徴である。このディフェンスには優れたフットワーク力が要求される。

３－３ディフェンスシステムに対する攻撃について

ボールの無いところでの動きが成功の鍵

幅広い柔軟なポジションの変化

第１回ユース世界選手権において、多くのチームはボールを所持したプレーヤーが広いスペースを利用した１対１により３－３ディフェンスシステムに対応していた。しかしながらこの攻撃方法は２つの理由によりディフェンスに適応されていた。

- 優秀であるが激しいプレーヤーはチームの統制を乱してしまう。
- すばやく、機動力のあるディフェンダーが１対１において広いスペースを埋める。

従って攻撃成功の鍵はボールの無いところでの活動にある。

- ボールの無い高い位置でマークを振り切りフリーになる。
- ボールの無い状態で、バックコートからゴールエリア付近への移動により変化する。
- 攻撃的なディフェンダーに対し高い位置で意図的にリターンパス。

ボールの無いところでの意図的なポジション変化やフォーメーションの再構築（シングルポストからダブルポストへ変化し、またシングルポストへ戻す）により、セルビア・モンテネグロは極端に攻撃的なディフェンスシステムにはこの柔軟なポジション変化（ゴー・イン・アウト）がいかに有効であるかを示した。

このゴー・イン・アウト活動は、ゴールに近づいたり遠ざかったりするオフェンスに対しディフェンス側がマークやマークマンのチェンジさらにはパスへの警戒などのディフェンス間の戦術的連携においてミスを引き起こすために構築された。攻撃側のプレーヤーはこのディフェンス側のミスを個人的にあるいはグループ戦術として利用できる。

さらなる利点としては攻撃側のこの動きに対して、ディフェンス側は新たな反応をしなくてはならないことが挙げられる。

ゴールから遠い位置からのパス

攻撃側の１人がゴールエリア付近からパスを受けにバックコートの方へ向かう。攻撃側のセンタープレーヤーはそれとは別のポストプレーヤーに意外なパスをだすことで、ポストプレーヤーは得点を獲得するために広いスペースと身体的有利なポジションを獲得できる。

ゴー・イン・バックアウト

攻撃側のセンタープレーヤーはポストプレーヤーにパスをし、ボールの無い状態でゴールエリアに走りこむ。この時、他の４人の攻撃プレーヤーは同時に移動している。左45プレーヤーは右45プレーヤーとクロスしながらポジションチェンジを繰り返す。このことによって、消極的になったディフェンスを攻めることができる。右45プレーヤーはディフェンスのチェンジミスを利用し、中央に位置するポストプレーヤーへパスをすることもできる。

ゴー・イン・アウト

きっかけはポストの切り上がり（連続写真２―①）で攻撃がスタートする。高い位置でポストへのパスの後、ボールの無い状態でゴールエリアに向かって走りこむ（連続写真２―④）。左45プレーヤーは走りこんだプレーヤーへのパスの可能性を探った後、右45プレーヤーとクロスをしようとするが右サイドへパスする。右45はそのままゴールエリア付近に走りこみ、パスをもらえる状態になる。

連続写真２



NTS2005報告

NTSコーディネーター　田中　茂

2005年度センタートレーニングが年明けの1月6日から9日までの4日間に渡り、中部大学体育館に各カテゴリー男女30名、計120名の選手を集めて行われました。指導インストラクターも、強化委員、ナショナルスタッフチーム、情報科学サポートチーム、指導委員会と充実した指導スタッフが一同に揃い、例年以上の充実した内容で開催されました。

今年度は、各カテゴリーで世界と戦う上での課題点を再認識し、課題克服のトレーニングを中心に共通課題、専門課題と分けセンタートレーニングを進行いたしました。同時に知的トレーニングを充実させ、選手自信のモチベーション向上、代表としての意識向上を充実させました。また、コーチセクションとして、各代表カテゴリースタッフ、日本リーグスタッフ、引率指導者等を対象にコーチングについても同時に開催いたしました。

今回は、全体スケジュール、トレーニング内容の例、参加者の感想を報告致します。尚、センタートレーニング参加者名簿は、2005、12月号（NO. 466）に掲載してあります。

1．スケジュール

（U－15）

6日　15：30～　体力測定
　　　16：00～　トレーニング
　　　19：30～　大塚製薬（栄養について）
　　　20：00～　知的スキル
7日　9：30～　トレーニング
　　　11：00～　ゲーム

（U－18）

7日　14：30～　体力測定
　　　15：00～　トレーニング
　　　19：00～　大塚製薬（栄養について）
　　　19：30～　知的スキル
8日　9：30～　トレーニング
　　　14：00～　トレーニング
　　　19：30～　知的トレーニングⅠ
　　　20：30～　知的トレーニングⅡ
　　　21：00～　知的トレーニングⅢ
9日　9：30～　トレーニング
　　　11：00～　ゲーム

2．課題点（代表的な課題点を抜粋）

＊トータル
　OF／DFのバランスの取れたプレーヤーの育成
＊フィジカル
　世界で戦える身体作り（トレーニング・栄養・睡眠）
＊メンタル
　平常心で戦えるメンタリティー
＊DF
　攻撃的DFを敷くための個人的・部分的・組織的トレーニング積極的防御における1対1のDF
＊OF
　プレスDF（けん制を含む）に対する攻撃状況に応じたシュート・パスのバリエーション
＊FB
　クイックスタートに対しての状況判断

3．トレーニング課題

＊共通課題トレーニング
　攻撃：状況判断、状況に応じたパス・シュートのバリエーション
　防御：予測的・機動的な防御の機能
　GK：状況に応じたシュートに対するキーピング
＊専門課題トレーニング
　U－16の課題克服トレーニング
　攻撃：プレスDF（けん制を含む）に対する動きのバリエーション
　防御：ボールを積極的に奪うDFシステム

4．知的トレーニング

＊国立スポーツ科学センタースタッフによる心理学、栄養学等のプレゼンテーション
＊JOCオリンピアン　武田美保（アテネオリンピック、シンクロナペア銀メダリスト）による競技者の心構えのプレゼンテーション

5．参加スタッフの感想

＊今回のセンタートレーニングで選手に求めたものは、プレスDFに対して安全にパスやキャッチができるテクニックを身につける事であった。昨年の韓国遠征で日本チームが抱えた問題であり、プレスしてプレッシャーをかけてくるDFへの対処方法が身についていないため、多くのミスをしてしまった。この問題は、U－16のカテゴリーだけの問題ではなく、上のカテゴリーでも同じことが言える。そのことを踏まえて、この段階では基本的なパス、キャッチを定着させることが大切であると考えて、パス、キャッチに多くの時間をかけた。今回のセンタートレーニングで選手は積極的にトレーニングしてくれたと思うが、基本的なパス、キャッチの定着は簡単にできるものではないので、継続して取り組んで欲しい。

＊今回のセンタートレーニングで、全てのスタッフお互いが知恵を出し合い、あるいはお互いが厳しい事を言い合う仲間でなければ我々も成長していかないと思います。その点においては大変よい刺激になったと思います。

＊参加していただいた各中学校の指導者の皆さんは、大変満足そうな様子で参加されていて、一層この事業に深い関心が集まることと思います。しかも、インストラクター達の面々を見れば誰しも納得するメンバーであったし、日本リーグスタッフといった方々の参加は、一番の目玉であったと感じ取りました。

＊選手、指導者もそうだが長所を伸ばすことが重要だと思う。

＊参加している選手、指導者の意識の高さがうかがえたよう



に思えます。これもセンタートレーニングを卒業したプレーヤー達が活躍している証拠ではないでしょうか。

＊体力班として、世界水準で考えたときに「日本選手にとってフィジカルの強さが必要である」と考えない指導者はほぼ皆無といっていいと思います。実際にプレーヤーの中でも測定の数値の高い選手はボールトレーニングの中でも非凡なものを持っていたように感じます。今後はハンドボール選手特有のフィジカルチェックとJISS(国立スポーツ科学センター）のフィジカル部門などとも連携をとりながら選手に対するトレーニング指導も行っていくべきかと思います。

＊U－19女子選手が、今回のテーマに対し真剣に取り組む姿、何とかものにしようという雰囲気、そしてその目の輝き、そしてそれに応えるべくスタッフの熱意がすごく伝わってきました。こんな状況を見て、これから先もっともっとNTSが日本ハンドボール界に浸透していかなければと。いい方向に進んでいるなと思いました。



日本協会便り

（財）日本ハンドボール協会グッズの価格について

日本協会では、協会作製ハンドボール関連グッズの販売において、消費税導入時も価格変更をいたしませんでした（消費税を実質協会負担）。しかし、協会財政も逼迫しており、平成18年4月1日より、ご購入いただく方に消費税をご負担いただくことに致しました（実質値上げ）。送料につきましては、現在と同様に協会負担とさせていただきますので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

尚、2006年３月31日までの注文につきましては消費税（５％）を差し引いた金額で申し込み下さい。

＊購入方法は、

①委託販売契約業者(株)ＦＩＳを利用。

http://www.handballfan.com/shopping/ネット販売ですので24時間営業しています。

②(財)日本ハンドボール協会事務局まで、現金書留にてお申し込み下さい。

③郵便振替も可能です。郵便局備え付けの「払込取扱票」をご利用下さい（電信は不可）。

口座番号　００１６０－４－５８３４８　　加入者名　財団法人日本ハンドボール協会

通信欄には、必ず物品名、個数、料金計算を記入し、ご依頼人欄にもれなく記入して下さい。

問い合わせ先　財団法人日本ハンドボール協会事務局
〒150-8050東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館内
TEL.03-3481-2361　　FAX.03-3481-2367

日本ハンドボール協会グッズの消費税込み単価一覧

平成18年４月１日より

	注文物品	一般　消費税込単価	会員　消費税込単価
一般用品	日本協会ピン	210	同左
	エンブレム（一般用：緑）	5,250	4,725
	ネクタイ（黒）	5,250	4,725
	ネクタイ（紺）	5,250	4,725
	ネクタイ（黄）	5,250	4,725
	ネクタイ三色セット	13,650	11,550
	ブレザーボタンセット（金色）	5,250	4,725
	ブレザーボタンセット（黒色）	5,250	4,725
	ハンカチ（紺ネクタイと同柄）	735	630
	カフスボタン・タイピンセット	2,625	2,100
出版物	NTS2000ビデオ（残部僅少）	3,150	同左
	NTS2004DVD(for coaches)	3,150	
	NTS2004DVD(for players)	2,100	
	NTS2004DVD(for kids)	3,150	
	ハンドボール研究誌１、２、３、４	@1,050	
	ハンドボール研究誌５、６、７号	@1,260	
	ハンドボール競技規則（平成17年度版）	1,365	
	同上10冊以上まとめ注文の場合	@1,260	
	ミニハンドボール冊子	630	
競技運営用品	公式記録用紙	1,050	
	チームタイムアウト申請板（2枚組）	1,575	
	チームタイムアウトスタンド（1ヶ）	3,675	
	退場者カード表示板	1,050	
	ベンチ責任者マーク	525	
審判員用品	審判手帳	735	
	イエロー・レッドカード（2枚組）	525	
	コイン	1,050	
	審判ワッペン（A、B級）	@1,575	
	審判ワッペン（C、D級）	1,365	
	レフェリーバッグ	3,150	
	笛	1,050	
	エンブレム（審判用：エンジ）	4,725	

※会員とは役員、選手、審判員として日本協会に登録している方、及び「がんばれハンドボール10万人会」サポート会員です。

ハンドボール選手の移動特性に関する研究

～二次元 DLT 法を用いた走行分析～

舎利弗　学（学校法人福島高等学校） 松永尚久（東海大学）
平岡秀雄（東海大学） 田村修治（東海大学）

目的

現在、ハンドボールの練習の中で行われているトレーニングは、指導者の過去の経験や知識を基に実施されており、科学的な裏付けや数量的な根拠は乏しい。これらの根拠となる情報は、実際の試合の中に含まれることから、試合中の移動特性を数量的に分析し、トレーニング方法・計画を作成する場合に有用な知見を得ることを目的とする。

方法

本研究では移動距離や移動速度の算出方法に二次元 DLT 法を採用する。分析対象の試合として、広島国際ハンドボール大会 2002 日本 vs 韓国、アテネオリンピックアジア予選日本 vs 韓国、日本 vs 中国、日本 vs カザフスタン（全て女子）を DV カメラに記録し、各選手の位置は DKH 社製の FRAME － DIAS でデジタイズして二次元 DLT 法により二次元座標に変換し、移動速度と移動距離を求めた。

次に、ゲーム中に見られる様々な動きを、予想されるエネルギー供給系をもとにして、田中ら（福岡大学）の先行研究より (Standing ＝ 0m/ 秒 , Walking ＝～ 1.5m/ 秒 , Jogging ＝～ 2.0 m / 秒 , Slow running ＝～ 3.0 m / 秒 , Moderate running ＝～ 4.0 m / 秒 , Fast running ＝～ 5.0m/ 秒 , Sprint ＝ 5.0 ～ m/ 秒）の 7 種類に分類し、各動きの出現傾向を表した。

結果及び考察

1. 移動距離と移動速度

ある選手の試合中の移動速度（前半）の推移から、ハンドボール競技は攻守の入れ替わりが頻繁に行われ、激しい動きと緩やかな動きが繰り返して出現する間欠的運動であることを見てとることができた。

本研究では全選手の移動距離の平均は 5743 ± 372 mとなった。

表 1　ポジション別移動距離・移動速度（1 ゲーム total）

	サイド (6)	BP (24)	ポスト (8)	GK (8)
動距離 (m)	5531 ± 144	5916 ± 275	5646 ± 140	2520 ± 172
高移動速度 (m/s)	8.12 ± 0.28	7.89 ± 0.45	7.84 ± 0.62	5.56 ± 0.89

なお、バックコートプレーヤー（BP）とサイドプレーヤーの間に有意差がみられた。（表 1 ・ GK を除く）

最高移動速度の平均は 7.96 ± 0.41m/s であった。ポジション間に有意な差はみられなかった。

2. 各動きの出現率

無酸素性の動き (Moderate running、Fast running、Sprint) は、全体の動きの中で 12%（約 7 分）であった。一方、有酸素性の動き（Walking、Jogging、Slow running）は 83%（約 50 分）であった。

ハンドボール競技は、約 12% の無酸素性の激しい動きと、移動やサイドステップなど約 23%の緩やかな動き、約 65% の走りのない有酸素性の動きで構成されていることが明らかになった。

サイドプレーヤーに Standing と無酸素性の動き（Moderate running、Fast running、Sprint ）が多く出現する傾向が見られ、Sprint にいたってはポストプレーヤーとの間に有意な差が見られた。

また、バックコートプレーヤーに Jogging と Slow Running が有意に多く見られ、サイドプレーヤーの Jogging の出現率が有意に少なかった。この結果はバックコートプレーヤーやサイドプレーヤーのポジションの特性によるもの考えられる。

なお、Jogging と Slow Running は移動距離との相関も強いことから、両者の移動距離の差にも大きな影響を及ぼしているといえる。

結論

以上のことから、「ハンドボール競技に必要な体力的要素とは、より速い無気的な動きを 1 試合衰えることなく間欠的に発揮し続ける能力である。」並びに、「プレーするポジションの特徴を踏まえてトレーニングすることの重要性が示唆された。」といえる。

そして、ハンドボールのトレーニングとして効果的であるためには、試合中の各動きの出現傾向より、1 分間あたり 100m 以上の移動距離で、約 5 秒間の激しい動き（無酸素性）と約 25 秒間の緩やかな動き（有酸素性）を組み合わせた間欠的運動を、最低 30 分間以上行うことが必要で、試合状況に酷似したトレーニング処方となることが判明した。

平成17年度 審判部合同委員会報告

平成17年度の審判部合同委員会は、平成18年1月28日（土）、29日（日）、国立スポーツ科学センター（JISS）会議室にて開催された。前年度をもって勇退した齊藤實審判部アドバイザー、今年度新たに就任した島田房二審判長の挨拶に始まり、18年度、並びに審判部としての将来のビジョンについて、さまざまな議論がなされた。以下にその概略を報告します。

1．17年度活動報告

A、B級審査においては、手帳の記入方法による不合格者が出ていること、ペーパーテストの不合格者が多いと報告がなされた。各ブロック・連盟報告の中では、「NTSとの連携」について確認と話し合いがなされ、今後各ブロックのNTSトレーニングに出来る限り審判長が参加して欲しいと確認された。また、各種大会において、コート外でのレフェリーのマナーについて話題に上り、周囲から不信感をもたれないような振る舞いをするようにと再確認した。委員会報告のなかでは、競技規則研究委員会よりルール改正について改めて競技規則約60箇所の変更個所の細かい確認、必携の3月末発行予定と、今回は別冊で問題集を作成することが報告された。視聴覚委員会からは、レフェリーだけでなくチームにも映像を提供し、より実践的な判定の向上に役立てたいとの方針が出された。

2．審議事項

4月15日～16日の日程で、今後の重要課題を確認するために、東アジアクラブ選手権（京都）開催に合わせ全国審判長会議を開催予定である。トップレフェリー研修会は、8月下旬が各ブロックともミニ国体と重なるために、9月最初の土日に、男子ジュニアアジア選手権（広島）開催時に行えるよう今後調整する。ジャパンオープントーナメント女子大会においては、積極的に女性レフェリーを登用する。また、各種大会において、審判会議時に手帳の回収を行うこと、大会審判長・副審判長も、然るべき登録を済ませておく事などが審議、承認された。また、18年度より、全国大会ノミネート方法を改め、以下に記す「指名レフェリー候補」15ペアを各大会に配置すること、この15ペアは毎年入れ替えを行うこと、ブロック審判長はこの15ペア以外のレフェリーについてブロック順位をつけ、それをもとに割り当てを行うことが確認された。

また、今年度よりA級審査の際のクーパー走の方法を変更し、2400mで終了ではなく、12分間走りつづけてその到達距離を測定することが確認された。

指名レフェリー候補

浜田・小笠原、仲田・植村、家永・福島（以上IHF）
藤井・大熨、永春・安田（以上AHF）

中舘・多田（岩手）	福田・冨田（茨城）
小林・土屋（埼玉）	黒木・黒木（東京）
山口・岩上（富山）	阿部羅・浜野（石川）
池渕・檜崎（岐阜・広島）	佐々木・高原（大阪）
野島・石原（岡山）	河合・田中（香川）

3．若手レフェリー育成（ヤングレフェリープロジェクト）について

中学生、高校生から審判資格についての問い合わせがくるようになってきた。若手の審判員を育成するチャンスを増やすため、審判登録年齢を現在の18歳から16歳に引き下げる提案がなされた。

AHF、そしてIHFでの審判育成の流れに合わせ、日本においても若手レフェリーの育成が急務であることが再確認された。そのために、レフェリーコースの実施方法を再検討し、今年度より参加資格を16才～22才と改め、B級資格を取得させることを目的とするのではなく、あくまでも「国際レフェリー」発掘の場とすることが審議・承認された。

また、ヨーロッパでの若手レフェリー育成法についての報告があり、日本でも審判部だけでなくハンドボール愛好家全てを巻き込んでの改革が必要であることが議論された。ドイツやフランスでは、ユースやジュニアのゲームは、同じ年代のレフェリーが担当し、彼らの懸命なレフェリングを指導者もプレーヤーも温かく見守っていると報告された。ゲーム後にはアドバイザーが指導をし、さらに試合を担当することで着実に上達していく…。文化の違いと片付けるのではなく、日本においても出来ることから改革を始めなければいけない。その第一歩として、各都道府県において、中学生・高校生の年代でレフェリーを志すものを率先して拾い上げ、講習会を行い仮の資格認定を行い、優秀なものにはNTSなどに合わせミニコースで指導、アドバイザーをつけて一緒に吹笛するなどのスキルアップ、英語のテストなどを段階に合わせ実施し、「将来の国際候補」を1ペアずつでも育成して行く。この様な新たな若手育成法が議論され、方向性の確認がなされた。

日本ハンドボール発展のためにも、審判界も改革を進めていかねばならない。まずは北京オリンピックに向け、一丸となって努力していきたい。

スコアールーム① 平成17年度　第57回全日本総合ハンドボール選手権大会

期　日：平成17年12月21日(水)～25日(日)
会　場：福井県営体育館、北陸電力福井体育館フレア

【成年男子】

優　勝　**大崎電気（16年ぶり９度目の優勝）**
準優勝　大同特殊鋼
第３位　トヨタ車体、湧永製薬

最優秀選手賞　宮﨑　大輔（大崎電気）

▼１回戦

早稲田大学	46（24－９、22－13）22	HC岡山
筑波大学	27（12－15、15－11）26	興南高校
大同クラブ	31（20－６、11－18）24	日本体育大学
日本大学	36（16－11、20－７）18	トヨタ自動車

▼２回戦

北陸電力	34（14－12、20－14）26	早稲田大学
トヨタ車体	33（20－８、13－13）21	筑波大学
トヨタ紡織九州	41（22－７、19－14）21	大同クラブ
ホンダ熊本	53（19－22、18－15）47 （４－４延一３－３） （６－１延二３－２）	日本大学

▼準々決勝

大崎電気	34（８－15、16－14）29	北陸電力
トヨタ車体	36（12－17、24－17）34	ホンダ
湧永製薬	28（14－10、14－16）26	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	35（17－８、18－19）27	ホンダ熊本

▼準決勝

大崎電気	41（20－14、21－16）30	トヨタ車体
大同特殊鋼	35（16－14、19－12）26	湧永製薬

▼決勝

大崎電気	**38（18―16、20―16）32**	**大同特殊鋼**

【女子】

優　勝　**オムロン（７年ぶり９度目の優勝）**
準優勝　広島メイプルレッズ
第３位　北國銀行、ソニーセミコンダクタ九州

最優秀選手賞　佐久川　ひとみ（オムロン）

▼１回戦

ＨＣ岡山	33（14－18、14－10）32 （３－２延長２－２）	大阪教育大学
ＨＣ名古屋	26（12－12、14－13）25	福岡教育大学
武庫川女子大学	24（11－10、13－９）19	シャトレーゼハンドボールクラブ
筑波大学	36（11－12、16－15）33 （１－０延一０－１） （４－４延二４－１）	MIE.Violet'IRIS

▼準々決勝

広島メイプルレッズ	30（15－13、15－12）25	ＨＣ岡山
北國銀行	25（12－９、13－12）21	ＨＣ名古屋
ソニーセミコンダクタ九州	30（18－９、12－14）23	武庫川女子大学
オムロン	35（16－10、19－９）19	筑波大学

▼準決勝

広島メイプルレッズ	31（15－８、16－16）24	北國銀行
オムロン	33（19－13、14－14）27	ソニーセミコンダクタ九州

▼決勝

オムロン	**35（15―９、20―14）23**	**広島メイプルレッズ**

スコアールーム② 第14回JOCジュニアオリンピックカップ2005ハンドボール大会

期　日：平成17年12月25日(日)、26日(月)：予選リーグ、27日(火)：決勝トーナメント
会　場：堺市家原大池体育館、堺市金岡公園体育館

【男子】

優　勝　茨城県選抜（茨城県は４年ぶり３回目の優勝）
準優勝　愛知県選抜
第３位　山口県選抜、兵庫県選抜

▼オリンピック有望選手

糟谷　周穂（兵庫県選抜・浜の宮中）
宮本　克哉（兵庫県選抜・高砂中）
木村　昌丈（茨城県選抜・鬼怒中）

▼最優秀選手

三富　康平（茨城県選抜・けやき台中）
横田　健嗣（茨城県選抜・手代木中）
会田　亮祐（茨城県選抜・けやき台中）
中村　領佑（愛知県選抜・汐路中）
山本　智哉（愛知県選抜・汐路中）
笹野　浩希（愛知県選抜・汐路中）
西岡　成憲（山口県選抜・通津中）
平子　卓人（三重県選抜・白子中）

▼予選リーグ
◆Aブロック
茨城県　35（18－14、17－16）30　三重県
長崎県　28（10－８、18－11）19　香川県
茨城県　34（20－12、14－７）19　香川県
三重県　28（14－12、14－16）28　長崎県
茨城県　29（17－９、12－16）25　長崎県
香川県　31（12－13、19－14）27　三重県
＊茨城県は決勝トーナメントに進出
◆Bブロック
山口県　46（22－６、24－８）14　北海道
大阪府　23（12－14、11－７）21　山口県
岩手県　29（15－11、14－16）27　山口県
大阪府　28（15－４、13－７）11　北海道
山口県　25（8－14、17－10）24　大阪府
岩手県　42（26－20、16－19）39　北海道
＊山口県は決勝トーナメントに進出
◆Cブロック
愛知県　30（17－11、13－11）22　東京都
福井県　30（16－11、14－11）22　堺（開催地）
愛知県　30（21－６、９－７）13　堺（開催地）
福井県　32（15－13、17－14）27　東京都
愛知県　26（13－11、13－11）22　福井県
東京都　26（15－９、11－16）25　堺（開催地）
＊愛知県は決勝トーナメントに進出
◆Dブロック
沖縄県　31（17－10、14－17）27　山形県
兵庫県　37（20－８、17－12）20　岡山県
沖縄県　33（14－14、19－12）26　岡山県
兵庫県　33（18－７、15－17）24　山形県
兵庫県　32（16－16、16－９）25　沖縄県
山形県　39（22－12、17－19）31　岡山県
＊兵庫県は決勝トーナメントに進出
▼準決勝
茨城県　27（15－10、12－12）22　山口県
愛知県　32（16－10、16－11）21　兵庫県
▼決勝戦
茨城県　26（12－９、14－16）25　愛知県

【女子】
優　勝　沖縄県選抜（沖縄県は５年ぶり２回目の優勝）
準優勝　奈良県選抜
第３位　福井県選抜、大分県選抜
▼オリンピック有望選手
該当者なし
▼最優秀選手
上原　未希（沖縄県選抜・浦添中）
池原　綾香（沖縄県選抜・港川中）
前田　千春（沖縄県選抜・神森中）
平岡　朋子（奈良県選抜・上中）
乾　彩友美（奈良県選抜・上中）
佐々木共誉（福井県選抜・明倫中）
古野　愛（大分県選抜・鶴崎中）
高山　智恵（大阪府選抜・東生野中）

▼予選リーグ
◆Aブロック
福井県　21（11－10、10－８）18　茨城県
愛知県　16（10－５、６－８）13　堺（開催地）
茨城県　28（17－７、11－10）17　堺（開催地）
福井県　25（12－10、13－８）18　愛知県
茨城県　24（９－11、15－８）19　愛知県
福井県　25（15－３、10－10）13　堺（開催地）
＊福井県は決勝トーナメントに進出
◆Bブロック
岡山県　19（６－９、13－８）17　香川県
沖縄県　21（11－10、10－10）20　大阪府
大阪府　24（11－８、13－12）20　香川県
沖縄県　22（10－11、12－６）17　岡山県
沖縄県　15（９－５、６－７）12　香川県
大阪府　26（14－９、12－９）18　岡山県
＊沖縄県は決勝トーナメントに進出
◆Cブロック
大分県　47（24－3、23－4）７　北海道
東京都　30（12－６、18－10）16　愛媛県
大分県　35（15－５、20－９）14　愛媛県
東京都　43（25－５、18－４）９　北海道
大分県　30（16－５、14－19）24　東京都
愛媛県　43（26－５、17－12）17　北海道
＊大分県は決勝トーナメントに進出
◆Dブロック
奈良県　26（14－９、12－16）25　石川県
三重県　20（９－10、11－７）17　岩手県
奈良県　30（15－６、15－11）17　岩手県
石川県　20（13－９、７－11）20　三重県
奈良県　27（16－９、11－12）21　三重県
石川県　31（15－７、16－16）23　岩手県
＊奈良県は決勝トーナメントに進出
▼準決勝
沖縄県　21（９－８、12－９）17　福井県
奈良県　17（９－８、８－８）16　大分県
▼決勝戦
沖縄県　21（10－４、11－９）13　奈良県

スポーツ・文化・ボランティア活動などの団体活動に最適な保険です



ぼくらの笑顔の強い味方!!

1000万人のガンバリサポート!!

スポーツ安全保険

傷害保険　賠償責任保険　共済見舞金



5名以上の団体でご加入ください

対象となる事故 ●グループ活動中の事故　●往復中の事故

保険期間 平成18年4月1日午前0時より翌年3月31日午後12時まで（申込受付は平成18年3月から）

団体	加入区分		掛金（1人年額）	対象範囲	保険金額 傷害保険 死亡	後遺障害（最高）	入院（1日につき）	通院（1日につき）	賠償責任保険（支払限度額）	共済見舞金
子どもの団体	A	中学生以下の子ども スポーツ活動を行わない大人（高校生以上）	500円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
子どもの団体	AW子どもワイド（中学生以下の方がご加入できます。）	中学生以下の子ども	1,050円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	上記補償に身体・財物賠償合算 1事故500万円を加算	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
子どもの団体	AW子どもワイド	中学生以下の子ども	1,050円	上記以外の個人練習、個人活動など（学校管理下を除く。）	100万円	150万円	1,000円	500円	身体賠償、財物賠償合算 1事故500万円（免責金額1,000円）	対象となりません
子どもの団体	AC	A,AW子どもワイドの子どもの指導・支援として一緒にスポーツ活動を行う大人（高校生以上）	1,000円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
子どもの団体	C	A,AW子どもワイドの子どもの指導・支援として一緒にスポーツ活動を行う大人（高校生以上）	1,500円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
大人の団体	A	高校生以上の文化活動団体	500円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
大人の団体	B	老人クラブなどの団体	800円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	600万円	900万円	1,800円	1,000円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
大人の団体	C	高校生以上のスポーツ活動団体	1,500円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円
大人の団体	D	危険度の高いスポーツ活動団体	9,000円	団体活動中とその往復中（学校管理下を除く。）	500万円	750万円	1,800円	1,000円	身体賠償 1人 1億円 1事故 5億円 財物賠償 1事故500万円（各免責金額1,000円）	突然死（急性心不全 脳内出血など）160万円

財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目12番1号　03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、FAXでも受付けしております。0120-104442（FAX専用）

〈共同保険会社〉あいおい損害　共栄火災　損保ジャパン　大同火災　東京海上日動　日新火災　ニッセイ同和損害　日本興亜損害　富士火災　三井住友海上

保険については東京海上日動を幹事会社として、上記損害保険会社10社との共同保険となっております。（2006年4月予定）

協会だより

平成17年度12月　常務理事会

日　時：平成17年12月10日（土）
場　所：大崎電気工業株式会社本社新館4F会議室
出席者：市原副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事2名、参事1名、事務局2名

審議事項

1．ナショナル選手公式国際試合出場記念表彰者について
表彰該当者の説明があり、トロフィーのデザインおよび表彰場面として第57回全日本総合選手権大会の準決勝1試合目直後に行う。

2．平成20年度全日本総合選手権開催地候補について
全日本総合選手権大会開催地について、平成19、20年度の開催地について審議。平成19年度は日本協会競技運営部主導により東京で開催、平成20年度については立候補地との確認調整を行い1月の常務理事会で決定する。

3．第1回春の全国中学生選手権大会競技役員について
3月に行われる第1回春の全国中学生選手権大会の総務委員長は普及本部長、総務副委員長に事務局長が担当する。

4．平成18年度会議日程について
資料により説明。10月の常務理事会は、例年国体時に行っているが、兵庫国体では、会場が3カ所に大きく分散されるため、定例日程通り10月14日（土）に開催。今後、10月の常務理事会の日程については検討する。

5．平成18年度登録具体的作業について
日本協会の登録カードとして現カードとの併用導入を決めたクラブニッポンのカード作成について説明。カードについてはマーケティング委員会で十分検討する。

6．その他
1）春の中学生大会について
春の中学生大会について、これまで富山県協会・氷見市と日本協会が直接調整をしてきた。普及部中学生専門委員会が入っての調整を12月のJOCカップの際に中学生専門委員会が開催される折りに審議検討する。
2）報奨金について
現在試算中、強化本部長と相談の上、1月常務理事会に提出する。
3）国体組合せのシードについて
シード方法について、意見を聞いて抽選方法も含め検討する。
4）大会における10万人会席について
10万人会のグランド会員用特別席の設置を協会として義務づけすること、周知の方法を検討する。
5）競技者増に関連して
競技者を増加させることについて検討する。

報告事項

1．プロジェクト21経過報告
広報活動について報告。現在ホームページ上で行われている大会情報だけでなく、委員会情報など非常に広範に広報する。HPの内容についても今後検討する。

2．北京オリンピックアジア予選豊田市招致交渉について
現在までの進行状況が説明された。

3．JOC第31回オリンピック国内立候補招致TD推薦について
資料により説明。

4．予算執行状況表
資料により説明。18年度の予算案提出が依頼された。

5．募金活動について
前回提案のあった募金活動について、今回の全日本総合選手権大会から実施する。

6．平成17年競技規則発行について資料8
新しい競技規則日本語版が12月20日に発行。

7．強化関係について
資料により報告。

8．宮﨑選手TBSスポーツマン№1決定戦出場について
宮﨑選手がTBSスポーツマン№1決定戦に出場し、良い結果をあげた。テレビ露出が多くなるので、これを機会にハンドボール広報を拡大する。

9．第57回全日本総合選手権大会、JOCカップ役員動向について
資料により説明。

10．平成18年度大会日程、国際大会スケジュールについて
資料により説明。

11．2006世界女性スポーツ会議くまもとについて
資料により説明。日本協会として、女性委員会担当参事2名派遣、地元の方にも参加を呼びかける。

12．日本リーグ関係
1）MIE.Violet'IRISが来季よりリーグ新規参入。
2）12月19、20日にトップリーグセミナーが開催。
3）1月8、9日に愛知県でNTSセンタトレーニング開催時、JHLウインターキャンプを開催。
4）4月14～16日に京都市で東アジアクラブ選手権大会を開催。
5）11月25・27日に名古屋市でチャレンジリーグを実施。
6）3月18、19日に日本リーグプレーオフ、その際に30回祝賀パーティを行う。
※日本トップリーグ連携機構の事業で今後、新人研修会、異競技レフェリーシンポジウムを計画中。日本協会と日本リーグがタイアップしてチームオーナーやスポンサーを集めての感謝会の開催提案。

13．第17回世界女子選手権大会途中結果について
資料により説明。

14．10万人会について
資料により説明。

15．委員会など議事録（普及）
資料により説明。

16．その他
1）東アジアクラブ選手権大会
2）ビーチハンドボールについて
3）ヤングレフェリー育成について
4）審議事項の資料について

北京オリンピック出場応援キャンペーン報告

（財）日本ハンドボール協会では北京オリンピック出場を目指すナショナルチーム応援のために募金活動を開始しました。スタートとして、昨年末の全日本総合選手権、JOCジュニアオリンピックカップ会場に募金箱を設置し、多くの皆様のご協力を頂きましたので報告致します。今後も各地での大会会場に募金箱を設置致しますので、よろしくご協力お願いいたします。

全日本総合：62,187円、JOCジュニアオリンピックカップ：6,555円

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」1月入会・継続会員

【岩手】多田和生　【東京】西岡雅樹、川村浩一、大場信吾　【長野】丸山洋子　【三重】小川　信　【京都】石井惇史
【大阪】長嶺利昭　【奈良】木村加代、木村和正、木村雅俊　【熊本】津田　修

【3月の行事予定】

【会議】
3月11日(土)
常務理事会(東京)

【大会】
3月18日(土)～19日(日)
第30回日本リーグプレーオフ(東京・駒沢体育館)
3月22日(水)～27日(月)
第29回全国高校選抜大会(東京・東京体育館ほか)
3月26日(日)～29日(水)
第1回春の全国中学生選手権大会(富山・氷見市)

訃報
日本協会参事・本誌編集長　北村善夫氏逝去

財団法人日本ハンドボール協会参事の北村善夫氏が、平成18年2月9日未明、自宅（茨城県水戸市）が全焼、その際の火傷がもとで帰らぬ人となりました。享年46歳でした。
北村氏は、本協会機関誌の編集長として日本協会にとって重要な仕事をされておられました。機関誌の編集はもちろんですが、自ら大会に出かけられて写真を撮影し、記事も書いていました。ここ数年の機関誌の表紙写真の多くは北村氏の撮影されたものであります。その中で撮影された1枚は、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）の主催する2004ハンドボール・フォト・オブ・ザ・イヤー特別賞を受賞されています。
ここに北村氏の生前の功績を偲び、衷心より哀悼の意を表します。

HAND BALL CONTENTS Mar

(登録チームの購読料は登録料に含む)

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

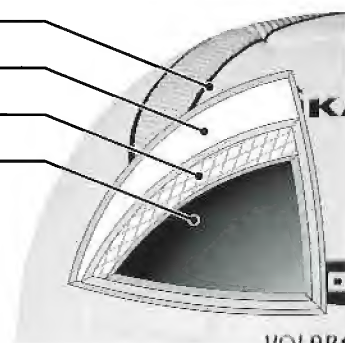
HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます



MIKASA®
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四六八号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十八年二月二十六日印刷 平成十八年三月一日発行

東京都渋谷区神南一−一−一

電話 代表〇三−三四八一−二三六一

振替 〇〇一二〇−七−一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円